

一般社団法人 日本音楽療法学会ニュース

発行 一般社団法人日本音楽療法学会

理事長 藤本 禮子 副理事長 土野 研治 副理事長 二俣 泉

事務局 〒105-0013 東京都港区浜松町 1-20-8 HK浜松町ビル 6階 TEL 03(5777)6220 FAX 03(5401)0337

巻頭インタビュー ～コロナと私たちとこれから～

小柳玲子（広報委員）：新型コロナ禍における日本音楽療法学会の取り組みついて、監事のお立場からお話をうかがえますか。

伊藤美恵（監事）：昨年5月に新型コロナウイルス関連特別委員会が立ち上がり、会員がコロナによる窮状をどうしたらしのげるか、様々な情報発信や、会費の減免など具体的な支援策の検討、現状の把握を行ってきました。

小柳：現場では、セッションを行うのか休止にするのか、対策はどこまでするかといった判断を個々のセラピストに求められることが多かったのですが、世の中の状況につられて判断基準が揺れ動き、それで疲弊している会員もいます。学会が指針を出してくれないか、と望む声も聞きました。

伊藤：学会としてもいろいろ検討はされたのですが、他の職種に比べて音楽療法の現場はあまりにも多岐にわたっているので、一括りにした指針は出しにくい、また指針を出した場合の責任の所在など課題がいくつもありました。個々の条件や音楽療法士の立場も様々なので、現場とよく話し合いながら「今、何ができるか」をひとつずつ選択していくしかない、私も思います。

小柳：コロナの状況下でそうした選択をしていく中で、実は一緒にやってきた同僚とかなり温度差があることに気づいて驚いたことがあります。コロナ禍は様々な境界や溝を生むと懸念されていますが、私の場合は逆に顕在化していなかった違いに気づききっかけにもなりました。この違いは、合わせようとしたり無くそうとしたりするのではなく、違いをお互いに理解し認めあっていく、という姿勢を思い出させてくれました。

伊藤：境界という意味では、オンラインセッションなど積極的に動いた人と、そうではない人がいますよね。前面で発信している人は大抵「やった側の人達」。でもそれを見て「やれない私達はダメなのか」と、動かないことを責められているように感じる人達もおられるだろうと思ってい

ます。

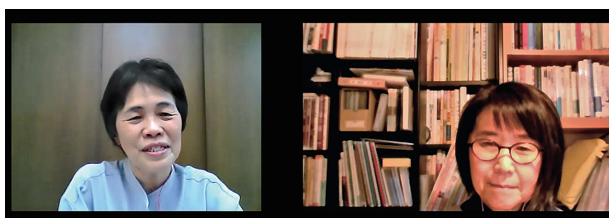
小柳：コロナ禍の話ではないのですが、私は震災の時は何も動けなかったんです。その後の10年間もずっとノータッチで。そのことを悔いている自分もいたのですが、もう見ないようになっていた。でも10年の節目に「関わらなかった立場」として震災関係のシンポジウムに参加する機会があって、被災地に行かなかったからこそ見えることを伝えるお役目をいただいたんです。それは、それまでの10年間の意味が変わってくる経験でした。

伊藤：経験の意味が変わってくる、「リフレーミング」ということですね。「何もしなかった」ということではなく、「逃げずにそこに居続けた」「じっと耐えた」ことによって得たものもあるはず。「起きた事」「したこと」という現実をやり直すことはできませんが、「意味づけ」をし直すことはできます。マイナスな1年としてしまわずに「リフレーミング」することによって、この1年はこれからの中に生きてくるのではないのでしょうか。

小柳：厳しい言い方も知れませんが、コロナ禍をきっかけにして、現場によって音楽療法士がどう位置付けられているかという違いがクリアになったようにも感じています。

伊藤：現場の職員が音楽療法士を仲間や同僚と捉えてくれている所では、「一緒に何かできないか」というコミュニケーションが生まれた気がします。逆に音楽療法士が「この条件でないとセッションしてもらえない先生」と捉えられていた所では、「条件が整わないからセッションはしてもらえない」と、いつまでも休止せざるを得ない。大事なのは、私達音楽療法士が相手にどう思わせていたか、に気づくことだと思います。

小柳：引き続き様々な判断や創意工夫が求められるでしょうが、実践の原点を振り返り、自分自身や現場のリソースに目を向けながら、納得のいく着地点を探っていきたいと思います。ありがとうございました。



日本音楽療法学会「研究発表特別大会（オンライン）」を終えて

理事長 藤本 禮子

2021年2月22日、2020年度「研究発表特別大会」はスタートを切りました。

研究発表、自主シンポジウム、公募ワークショップ合計94本がインターネットで動画配信され、1,184名の参加者が視聴を開始しました。大会は3月15日まで3週間続きました。

学会は、新型コロナウイルス感染症拡大という状況の中、いわばやむなくオンデマンド配信というシステムを使用しましたが、この新しいシステムには、思いもかけない大きなメリットがあったことを、私たちは皆実感しました。誰一人会場に行く必要がなく、発表者は事前に動画録画を提出し、視聴者は自宅から、職場から、早朝から深夜まで、自由に好きなだけ視聴することができたのです。私は、今まで経験した20年余りの大会でこんなにたくさんの発表を視聴したことはありませんでした。何よりの成果でした。

研究発表では「その他自由」という新たな形式の提案により、発表に広がりが見られました。問題意識を共有した仲間が自由闊達に真剣に語りあった自主シンポジウム、個性的な内容と形式のワークショップ、それらに学会とその音楽療法士の頼もしさ、生き生きとした強烈なエネルギーを強く感じたのは私だけではないでしょう。

音楽療法に掛ける熱い思いがこもった大会を、発表された多くの会員、視聴されたもっと多くの会員と一緒に経験することができたことに深く感謝いたします。

そしてなによりも、新しいオンデマンド配信というシステムによる大会運営に挑戦してくださいました、オンライン企画特別委員会の方々のご努力を尊敬いたします。

「何が私達をこんなに動かしているのだろう！ さあ次へ！」

研究発表特別大会（オンライン）を終えて

オンライン企画特別委員会
委員長 那須 貴之

日本人は「ハレ」と「ケ」という生活パターンの概念を持っています。「ハレ」は「非日常」であり、祝いや特別というイメージがあります。「ハレ（晴れ）舞台」、「ハレ（晴れ）着」は聞き馴染みのある言葉ではないでしょうか。一方「ケ」というのは日々の生活や労働など「日常」そのものという考えです。「ハレ」と「ケ」は光と影のようなもので、「ハレ」だけ存在することはなく「ケ」という日常があるからこそ「ハレ」が存在するという関係性があります。もし毎日が「ハレ」であれば、それはもはや「ハレの日」ではなくなります。

新型コロナウイルス感染拡大は社会に様々な影響を与えました。こと「ハレの日」、例えば旅行、ライブやコンサート、発表会、全国高校野球大会等のスポーツ大会、入学式や卒業式、成人式などの式典等、人々が集まるまさに「ハレ舞台」は中止や延期、縮小などの措置がなされ、多くの人々の生活に影響が及びました。「ハレ」と「ケ」という文言について、Wikipedia上で「昔の日葡辞書では、ハレ（Fare）という言葉が人々が集まる場所と説明されている」と見た時は、なんとも皮肉な話だなと思ったものです。

ここで、音楽療法に目を向けてみましょう。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、セッションができなくなったケースが多くあります。確かにそれはもっともな理由で、受け入れざるを得ないのかもしれませんが。しかし日常生活、つまり「ケ」を支える活動が止まることはありませんでした。私たちの生活を支える製造や物流はもちろんですが、医療、福祉、教育（登校はできなかったけど）という活動を止めることはありませんでした。継続を前提とした創意工夫、ときにはリスクを負いながら継続しています。では音楽療法は何故止まるのでしょうか。医療、福祉、教育という領域で実践されていても、社会からは「ケ」としての認知はされていないのかもしれませんが。コロナ禍にあって“音楽”はどちらかというところ「ハレ」として、不要不急なものとして社会から認知されました。では“音楽療法”はどうか。「ハレ」の要素があるかもしれませんが「ケ」>「ハレ」としてあるべきではないでしょうか。支援を求めている方たちの日常を、より良いものにする日々のお手伝いは「ケ」であると、ひとりの療法士として思っています。この特別大会ではカテゴリーを細かくすることを提案しました。それは一人一人の実践は、多彩で多様な多くの人の「ケ」に寄り添ったものであることをアピールしたかった、そんな思いがあったかもしれないと、終わってから問答を繰り返しています。

さて、2021年2月22日から3月15日に渡ってオンラインで開催された研究発表特別大会は、研究発表68題、自主シンポジウム14題、公募ワークショップ12題と充実した内容となりました。そして約1200名の参加者に支えられ、無事に終えることができました。この紙面を借りてお礼申し上げます。

熊本大会をはじめとして集り合って学ぶ講習会、聴衆の前での演題発表、まさに「ハレ舞台」を今年は実施することはできませんでした。しかし、“学ぶ”ということと“集まる”ということは別のもではないでしょうか。“集まる”ことは日葡辞書にあるように「ハレ」であって、“学ぶ”ことは「ケ」なのではないでしょうか。そもそも“学ぶ”ということは、個人が自分と向き合い、個人の中で完結するものではないかと思えます。そのような意味でも、オンライン大会が、皆様の学びの場として意味のある大会であったはずだと、企画者一同、切に願っております。

「新型コロナが落ち着いて、前のように集まりたい」という言葉をよく聞きますが、前のようには戻りません、過ぎ去ったものは戻ってきません。次に集まりあったとしても、それは集まりあう“新しいかたち”となっているはずですが。私たちは、どのような“新しいかたち”を目指しますか。これからの音楽療法、そして音楽療法士はどのような発展を目指しますか。「ケ」の職業なのでしょうか、それとも「ハレ」の職業なのでしょうか。

様々な課題が山積していると思います。そして、この先どうなるのか、それはわかりません。しかし、私たちはとても素敵な言葉を持っています、「今、ここ」という言葉です。今は、今に集中し、できることに精一杯向き合ってください。

末筆ながら、本大会にご参加くださった皆様、企画運営を支えてくださった皆様に、重ねて厚く御礼申し上げます。

第21回日本音楽療法学会学術大会（新潟）へのいざない

第21回日本音楽療法学会学術大会
実行委員会事務局長 丸山 敬子

新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たない中、学会員の皆さまにおかれましては、いかがお過ごしでしょうか。コロナ禍により、人々の生活は様変わりしましたが、冬には雪景色、春には桜、そして新緑と新潟の色とりどりの風景は変わらずに美しく過ぎていきます。

信越・北陸支部では第21回学術大会を担当するにあたり、四季折々に豊かな自然の恵みを享受できる新潟の朱鷺メッセ（新潟コンベンションセンター）で皆様をお迎えしようと考えました。学会テーマを「だれかのためになることで素敵に生きられる！—音楽療法の技法と相互交流を考える—」として、実行委員一同が希望と責任感を共有しました。ところがその後、水害で長野県は大きな被害を受け、被災支部として心を痛めた時期もありました。このようなさまざまなことを乗り越えて、「さあこれから」という思いで第1回実行委員会を開催した矢先の新型コロナウイルス感染症の拡大でした。

緊急事態宣言により、実行委員会は事実上活動の停止を余儀なくされました。その後、感染拡大の状況が変化中、現地会場開催の可能性の検討も結論が二転三転しました。このような経過ののち、二俣泉先生、高山仁先生のご助言の元、株式会社学会サービスのサポートを受け、実行委員会はオンライン会議で準備を精一杯進めてきました。学術大会は、新型コロナウイルス感染症拡大状況により変更の可能性もありますが、現地会場開催とオンデマンドによるWeb配信を併用します。

現地会場開催は9月25日（土）26日（日）です。25日には開会式の後、サラ・B・ジョンソン先生の講演、研究発表、公募ワークショップを予定しています。26日には佐治晴夫先生の講演、そして湯川れい子先生、藤本禮子理事長と宮本啓子大会長による鼎談、会員集会、研究発表、自主シンポジウム、閉会式を予定しています。

現地開催では、研究発表等において参加者間での自由で活発な意見交換ができます。研究発表等は学会の中心軸でありますから、リアルタイムでの意見交換は意義深いものとなることと思います。さらに、記念すべき第1回の日野原賞の受賞イベントと受賞者の特別講演の企画案も挙がっています。状況が許す限り、現地開催を積極的に考えていきたい所存です。

また、新型コロナウイルス感染症の影響で来場できない発表者や参加者のために、さらに現地開催が不可能になった時のリスク回避のためにWeb開催を併用して行います。会場で発表される演題内容をWeb開催と同一データとすることで、現地会場開催とWeb開催の平等性を担保いたします。Web開催期間は9月25日（土）から10月10日（日）です。Web開催特設サイト内にアップロードされた演題を、いつでもどこからでもご覧ください。現地会場へおいでいただいた参加者も閲覧が可能です。

講習会は、感染状況の影響を最小限にするためにWeb開催のみといたしました。学術大会にふさわしい講師陣による内容豊富な20コマの講義を予定しています。中には、新潟ならではのテーマのものも用意いたしましたので、Web開催でありながらも、新潟開催らしさを感じていただけるのではと思っております。詳細は大会ホームページをご覧ください。

演題募集期間は4月20日（火）正午から5月20日（木）17:00までとなっています。音楽療法ならではの多彩で柔軟な内容の演題が数多く応募されることを期待しております。演題応募方法は大会ホームページでご案内しています。

参加登録期間は7月1日（木）正午から8月31日（火）17:00までとなっております。学術大会、講習会ともに事前登録のみとなっております。締め切り後の登録および当日の参加登録は行いませんので、必ず期限内にご登録下さいますようお願いいたします。

この度の学術大会では、コロナ禍だからこそ発見できる音楽療法の魅力、そしてコロナ禍でも色あせない音楽療法の魅力について思いを共有できることを願っています。大会テーマにありますように、技法、相互交流について考えることは、音楽療法の真髄に通じることと思っています。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況は予測できない現在ですが、状況がどう変化しようと、学会も講習会も参加された皆様にご満足していただけるものにと、実行委員一同知恵を絞って開催に向けて邁進しております。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。どうぞお健やかにお過ごしください。そして、皆様と交流できることを心待ちにしております。

大会ホームページはこちらです。 <http://www.gakkai.co.jp/jmta21/>
適宜ホームページをご覧ください。

■ 日本音楽療法学会 2021年度（三期分）研修・講習会のご案内 ■

研修・講習委員会
委員長 高山 仁

昨年春の緊急事態宣言から1年を経過し、私たちの日常は大きく変わりました。しかし、このような状況にあっても私たちは「生きぬくこと」へ新たな挑戦を開始し、コロナウィルスを“敵”とし「この戦いに勝つ」と自分を鼓舞したり、コロナ禍、コロナ下、with コロナ、post コロナ、after コロナなどと言語化することで、「今」を受け入れ、揺れ動く私たちのココロの平安を保とうと自らを方向づけているようです。

このような「私たち人間」をパスカルの“考える葦”と表現しました。コロナという“激しい風”にさらされながらも頑張っ生きて考える“私たち”、そして、思考し表現し伝え合うことで生きぬく力を温存しようとする“私たち”。事実、私自身も考え表現しつつ、そのために必要な新たな「知」を得ることに、この一年間を費やしてきたように思います。

一方、音楽療法の現場は、まだまだ厳しい状況にあります。ソーシャルディスタンスも科学的見知から工夫の余地を見出し、少しずつ回復しつつあるようですが、しばらくはこの状況が続くでしょう。

本研修・講習委員会では、この状況にあわせた「知」の獲得、さらに「思考し表現し伝え合うこと」への動きを続け「未来」を拓きたいと考えています。幸い、私たちはオンラインという方法を手にしました。今年度は、現地研修を望みながらも、「オンラインだから出来る研修」を進め、さらに状況をみながら「現地対面型研修」の企画を計画検討しております。

具体的には、夏、冬、来春と三期に分けて開催し、第一期・第二期は〔オンライン研修・講習〕を再配信を含めて複数本配信し、第三期は、状況を見ながら2022年2月（予定）に〔現地対面型研修〕を復活したいと思います。

是非、学びつづけることをともに励行してまいりましょう。会員の皆様には、年間の研修を計画的にお進めいただきますよう、ご案内申し上げます。

第一期：2021年7月1日（木）～8月20日（金）オンライン研修・講習会

◎オンデマンド型 オンライン研修・講習会

●新オンデマンド型 研修・講習 詳細は学会ホームページをご覧ください。

内容	講師	タイトル	認定 Pt	更新 Pt
講演	東邦音楽大学 平田 紀子	音楽療法における歌唱伴奏の工夫と応用 ～コロナ禍への対応を意識して～	2 Pt	2.5Pt
実践報告	◎司会・まとめ役： 昭和音楽大学 白川 ゆう子 ◎発表者 東邦音楽大学 木下 容子 旭出学園 関 郁史 大誠会内田病院 高橋 由貴子	◎全体テーマ：「音楽療法士が職場で活躍するためのコミュニケーションの『術』」 木下氏「音楽療法士が職場で抱く多彩な感情をポジティブに変換する『術』～職場での様々なコミュニケーションを振り返って～」 関氏 「高齢者施設での音楽療法士の役割を考える ～介護職との兼務の経験を通して～」 高橋氏「うまくいかなかった関わりの経験から見つけたこと ～ポジティブに仕事ができるためのひと工夫～」	2 Pt	2.5Pt

※上記2講座は「資格認定試験」対応講座ですが、資格取得者にも十分視聴いただける内容となっております。

○再配信 オンデマンド型 研修・講習（2021年2月配信分3本） 詳細は学会ホームページをご覧ください。

内容	講師	タイトル	認定 Pt	更新 Pt
講演 1	英国ノッティンガム大学医学部 精神科 応用心理学科講座 オリイ・マクダーモット博士	「認知症者音楽評価尺度（Music in Dementia Assessment Scales : MiDAS）とは何か：その背景と有用性、そして今後」その1	2 Pt	2.5Pt
講演 2	英国ノッティンガム大学医学部 精神科 応用心理学科講座 オリイ・マクダーモット博士	「認知症者音楽評価尺度（Music in Dementia Assessment Scales : MiDAS）とは何か：その背景と有用性、そして今後」その2	2 Pt	2.5Pt
実践報告	たかやま音楽療法研究所 主宰 高山 仁	実践研修：「ある重症心身障害者の10年間の記録から学ぶ ～目的論を中心テーマとして～」	2.5Pt	2.5Pt

第二期：2021年12月15日（木）～1月31日（月）オンライン研修・講習会

◎オンデマンド型 オンライン研修・講習会

●新オンデマンド型 研修・講習 詳細は学会ホームページをご覧ください。

内容	講師	タイトル	認定 Pt	更新 Pt
講演	現在 交渉中	「音楽性」とは何か、音楽療法の基本に立ち返り「音楽」について学ぶ（予定）	2 Pt	2.5Pt

○再配信 オンデマンド型 研修・講習（2020年11月配信分3本） 詳細は学会ホームページをご覧ください。

内容	講師	タイトル	認定 Pt	更新 Pt
講演 1	東京都立産業技術大学院大学 田部井 賢一	音楽療法士が知っておきたい「音楽と脳」の基礎知識	2 Pt	2.5Pt
講演 2	日本大学 大寺 雅子	音楽療法士が知っておきたい 「心理的援助のためのコミュニケーションスキル」	2 Pt	2.5Pt
実践 報告	ドレミ株式会社 猪之良 高明 ほそえ音楽教室 細江 弥生 ミュージックラボFUN 猪野 純	全体テーマ「音楽療法士の自営・起業 ～実践者からの報告～」 細江氏「理念確立の大切さ」 猪野氏「個人開業の音楽療法が求められていること」	2 Pt	2.5Pt

◆オンライン研修・講習会 視聴料

1本 一律2,000円 申込本数の制限はありません。また、視聴期間内であれば何度でも視聴いただけます。

◆申込み方法

- ・動画の申込み、視聴には「マイページ」の作成が必須です。学会ホームページの「オンライン研修・講習会」からお入りいただき、【マイページの作成・ログインはこちらから】ボタンから会員（非会員）も、ご自身でご作成ください。
- ・一度作成した「マイページ」は以後も引き続き使用できます。1人につき1マイページを作成してください。

◆再配信に関する制限

「すでに視聴済みの講座」に関しては、再視聴できませんのでご了承ください。

※オンライン研修・講習会の講座内容についてのご質問は受けつけておりません。

第三期：2022年2月上旬（予定）現地対面型 研修・講習会

◎「現地対面型」研修・講習会

●2022年2月上旬（1日4コマ研修：3～4会場で実施予定） 詳細は学会ホームページをご覧ください。

内容	講師	研修内容（予定）	認定 Pt	更新 Pt
講演 実践	検討中	「セッションにおける活動の質的側面」「音楽の質」「作編曲」「活動の展開法」「アセスメントから評価まで」など、オンライン研修・講習ではできない内容とし、実践的活動や討議などの形式を想定しております。予定としては「一人の講師」により4コマを担当し、「主体的・対話的で、より深い学び」の企画を検討しております。ご期待ください。	これまでの規定に準ずる	これまでの規定に準ずる

※ご注意：なお、本研修は、今後のコロナウイルス感染拡大状況により、中止、または延期になる場合がございます。詳細は「学会ニュース42号」、ならびに、学会ホームページをご覧ください。

◆受講料・申込み方法につきましては「学会ニュース42号」、ならびに、学会ホームページをご覧ください。

■ 国家資格推進委員会報告 ■

国家資格推進委員会
委員長 藤本 禮子

国家資格推進委員会の活動について、1. 国家資格化に向けた国会議員との活動の様子、2. 国家資格化の情報発信について以下にご報告いたします。

1. 国家資格化に向けた国会議員との活動について

学会ホームページに掲載しましたように、2019年2月から新型コロナウイルス感染症の拡大が始まり、国会議員との国家資格に関する法文案の検討が中断していましたが、9月から少しずつ再開されました。10月には、鴨下一郎議員（自民党）、浮島とも子議員（公明党）にそれぞれ学会顧問就任のお願いにあがりました。秋野公造議員（公明党）と佐々木さやか議員（公明党）との法文案検討も再び始まり、両議員には顧問就任もお願いをいたしました。会員からの紹介で実現した国光あやの議員（自民党）との会見は、前回の学会ニュースでお伝えいたしました。

2020年12月には、秋野議員と佐々木議員のご案内で法制局、文科省との会見がそれぞれ開かれ、音楽療法に関する資料を提出し、音楽療法士の国家資格化への強い要望をお伝えしました。法制局、文科省からは、更に詳細な資料の提出などが求められ、年末年始の休暇に入りました。

年が明け2021年3月には文科省との2度目の会見が実現し、国家資格化の対象や目的などについて密な話し合いが行われました。今後も関係省庁との会見が重ねられることとなります。

2. 国家資格化活動に関する情報発信について

会員の皆様に国家資格化の活動の具体的なことなどについて知っていただくことを目的とし、2020年度オンライン研究発表特別大会（配信期間：2021年2月22日～3月15日）に自主シンポジウム「国家資格は今！3」を企画して、配信いたしました。国家資格推進委員と会員がシンポジストになり、国家資格に関する「Q&A 第2弾」、並びに会員が抱く疑問に答えるという形式でおこないました。このシンポジウムは、多くの会員が視聴して下さったと聞いております。

続けて3月7日には、関東支部の主催による「国家資格フォーラム」を2時間にわたり Zoom で配信しました。「Q&A 第2弾」全14題を説明し、参加者からライブで質問も受け、応えていきました。この「フォーラム」は録画され、関東支部以外の全国8支部に配信されました。各支部の支部会員の皆様も是非ご覧ください。

また3月7日の午後には、東海支部大会（Zoom 開催）に参加し、国家資格化について東海支部会員の皆様に直接お話をさせていただきました。

関東支部の国家資格フォーラムや東海支部大会に参加して下さった会員の皆様からは「国家資格が身近なことになりました」という感想をうかがっております。

これからも国家資格化に向け国会議員の方々と積極的にやりとりを続けて参ります。それらに関する情報を学会ホームページ上だけでなく、会員の皆様が国家資格化の活動を身近に感じ、考えていただけるよう工夫を重ねながらお伝えしてまいります。

学会会員の皆様と一緒に力を合わせなければ国家資格化は実現いたしません。皆様と共に、歩みを止めずに進んで参ります。

■ 必修講習会コースの終了について ■

資格認定委員会

必修講習会コースは、暫定期間（※）終了時に資格を取得できていなかった多くの会員への救済措置として、2008年3月に検討が開始され、2010年9月1日に制定されました。

当初の役割が果たされたことなどを鑑み、必修講習会コースは第六期の新規募集をもって終了することとなりました。

尚、必修講習会第六期終了時に、受講修了に至らなかった受講生を対象とした補講を提供する予定です。その詳細につきましては、ホームページなどでお知らせいたします。

※暫定期間とは、1996年12月から2003年3月までの全日本音楽療法連盟（日本音楽療法学会の前身）によって「認定校」の整備が行われる措置としての期間。（全日本音楽療法連盟第18回理事会資料2000年5月より）その後暫定期間は延長され2011年3月に終了しました。

学会事務局からのお知らせ

■ 第22回日本音楽療法学会学術大会開催のお知らせ

- 日 程：2022年9月16日（金）、17日（土）、18日（日）
 - 会 場：広島国際会議場
 - 大会長：岩永 誠 実行委員長：頼島 敬 事務局長：木村 敦子
 - 大会テーマ：「コミュニティでの共生を支える ～音楽療法の役割を考える～」
- ※大会案内は順次お知らせします。

■ 2021年度 音楽療法士資格審査（面接試験）のお知らせ

2021年度の資格審査の申請期間や申請方法等につきましては、9ページをご覧ください。

■ 2021年度 資格更新審査のお知らせ

- 対象者：1996年度第1回、2001年度第6回、2006年度第11回、2011年度第16回、2016年度第21回の認定者
- 申請受付期間：2021年10月15日（金）～10月29日（金）（最終日事務局必着）
- 最終審査結果：2022年2月初旬頃通知 ※猶予を申請される方も受付期間に申請してください
- 対象となっておられる方は事務局よりお送りします申請書類（資格更新規則／同細則）にて申請してください。また、申請書（資格更新規則／同細則）を紛失された方は32ページ「各種資料取り寄せ方法」をご覧の上お取り寄せください。

■ 2021年度 音楽療法士（補）資格審査（筆記試験）のお知らせ

2021年度の（補）資格試験の申請期間や申請方法等につきましては、8ページをご覧ください。

■ 会費（年会費）納入のお願い

2021年度新年度が始まりました。年会費は専用の振替用紙にて早めにお納めいただきますようお願いいたします。

正会員 10,000円 学生会員 6,000円
購読会員 6,000円 賛助会員 50,000円／1口
払込先 郵便振替口座 加入者名：日本音楽療法学会 口座番号：00120-9-657711

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響による経済的事由のために2021年度の年会費減免を希望される方は申請が可能です。詳細は13ページをご覧ください。

■ 入会案内パンフレット取寄せについて

学会の入会案内パンフレットを新規に作成いたしました。会員の方は20部を上限として無料でご請求いただけます。学会ホームページ上のお問い合わせ欄、もしくはFAX・郵送にて必要部数を明記の上ご請求ください。送料や返信用封筒の送付は不要です。なお、学会ホームページ上、「各種刊行物」ページ内にデータが掲載されておりますので、ご自身でダウンロードし、印刷することも可能です。

■ 学会ホームページからの規則書閲覧について

学会ホームページにて各規則書の抜粋版を閲覧いただくことができます。メニューより「ダウンロード」を選択いただき、規則書ファイル（PDF）をダウンロードしてご覧ください。

■ 学会ホームページ「お問い合わせ」新設について

学会ホームページよりお問い合わせの受付を開始いたしました。学会ホームページや学会ニュースなどの広報媒体や認定規則書等の発行物で確認ができない事項についてご質問がある場合は、学会ホームページメニュー「お問い合わせ」より必要事項を入力して送信してください。回答はご記入いただきましたメールアドレスにメールで送信されます。尚、ご回答までにはお時間を要する場合がございますので、あらかじめご容赦ください。

■ 認定音楽療法士対象 ピティナとの情報共有サービスについて

一般の方々への「音楽療法士資格を保有するピアノ指導者」の情報提供を目的として、一般社団法人全日本ピアノ指導者協会（以下、ピティナ）との間で、学会認定音楽療法士有資格者の情報共有サービスを開始しました。条件を満たす方はピティナ Web サイト上のピアノ教室紹介ページに「音楽療法士マーク」を無料で表示することができます。ご希望の方は下記に沿ってお申し込みください。

対象者：日本音楽療法学会認定音楽療法士 かつ ピティナ会員である方。

申込方法：会員名、学会とピティナ両方の会員番号を明記の上、「ピティナ ロゴマーク表示希望」として学会事務局宛にメールをお送りください。

メールアドレス jmta.ptna@jmta.jp

注意事項：申し込み先はピティナ事務局ではございません。

申し込み後、ロゴマークの表示までに日数を要しますのでご了承ください。

認定音楽士資格が失効した場合、ロゴマークの表示は中止されます。

■ 「スーパービジョンの手引」のご購入について

スーパービジョン検討特別委員会編纂の「スーパービジョンの手引」が発行されています。（A4版60ページ、2015年8月発行）購入を希望される方は32ページ「各種資料取り寄せ方法」をご覧ください。

■ 「抄録の書き方」のご購入について

研修・講習委員会編纂による「抄録の書き方（わかりやすい学会発表をするために）」が発行されています。（B5版76ページ、2006年8月23日発行）購入を希望される方は32ページ「各種資料取り寄せ方法」をご覧ください。

■ 「音楽療法臨床ハンドブック」のご購入について

学術研究委員会編纂による「音楽療法臨床ハンドブック」が発行されています。（A4版114ページ、2019年4月発行）購入を希望される方は32ページ「各種資料取り寄せ方法」をご覧ください。

■ 〈DVD「音楽のちから2012」～音楽療法が拓く可能性～〉のご購入について

15分間の音楽療法の啓発DVDが発売されています。購入を希望される方は32ページ「各種資料取り寄せ方法」をご覧ください。（一般の方に視聴していただくのに最適です。）

■ 第20回認定音楽療法士（補）試験問題解説集の発行について

2021年1月17日（日）に実施された20年度音楽療法士（補）資格審査（筆記試験）の試験問題解説集が2021年6月に発行されます。該当試験受験者の方には事務局からお送りしますが、それ以外で購入を希望される方は32ページ「各種資料取り寄せ方法」をご覧ください。なお、併せまして新たに2015年度～2020年度の5ヵ年度分の合冊版が発行されます。

■ 学会誌バックナンバーのご購入について

日本音楽療法学会、日本バイオミュージック学会および臨床音楽療法協会の学会誌バックナンバーの購入につきましては、学会事務局では取り扱っておりませんので下記へお問い合わせください。

〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-21 アカデミア・ミュージック株式会社

TEL：03-3813-6751 FAX：03-3818-4634

■ 各種資料取り寄せ方法

各種資料の取り寄せを希望される方は、郵便局にて料金分の定額為替をご購入いただき、希望資料の内容を明記した封筒（例、規則書必修講習会コース 請求）に同封の上、学会事務局までお送りください。その際、送付する為替には「なまえ」など何も記入しないでください。返信用封筒は不要です。

資料		金額（送料込）
認定規則書	必修講習会コース	500円
	面接試験	500円
	資格更新	500円
認定音楽療法士（補） 問題解説集	2001～20年度単年度版 ※希望年度を明記してください	各1,000円
	2001～05年度、2006～10年度、 2011～15年度、2016～2020年度 五ヶ年分合冊版 ※希望年度を明記してください	各2,000円
その他	抄録の書き方	1,000円
	スーパービジョンの手引き	1,000円
	倫理ハンドブック	500円
	特別プロジェクト研究報告	500円
	音楽療法臨床ハンドブック	2,000円
DVD	音楽の力2012 ～音楽療法が拓く可能性～	1,000円
学会誌、学術大会要旨集、学術大会 講習会資料集（2018年度～）	日本音楽療法学会、日本バイオミュージック学会および臨床音楽療法協会の学会誌バックナンバー、学術大会要旨集（第15回世界音楽療法大会含む）、2018年度以降の学術大会講習会資料集のバックナンバーは学会事務局では取り扱っておりませんので下記までお問い合わせください。 アカデミア・ミュージック株式会社 〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-21 TEL：03-3813-6751 FAX：03-3818-4634	

■ 事務局への各種お届けについて

● 会員区分変更

現在学生会員の方で教育機関を卒業された方は、正会員への会員区分の変更が必要です。事務局まで文書にて区分変更の届出をお願いします。書式は自由です。正会員から学生会員へ変更を希望される場合は、学生証のコピーを添付の上、同様に事務局へ届け出てください。

※学生会員は認定申請ができなるとともに、研究発表、論文発表もできません。ご注意ください。

※認定をお持ちの方、必修講習会を受講中の方は正会員であることが必須のため、学生会員への変更はできません。

● 住所・名義変更

市町村の合併などを含め住所および連絡先に変更がある方、名義を変更される方は、学会ホームページから、もしくは事務局宛てに文書にて変更を届け出てください。書面で提出する場合の書式は自由です。

■ 各種証明書再発行手数料のお知らせ

学会の発行する各種証明書の再発行にはつぎの手数料がかかりますのでご了承ください。手数料分の定額為替（郵便局にて購入）を同封の上、希望の再発行内容を記載し学会事務局へお申し込みください。

- 音楽療法士（補）資格証明書、各種講習会受講証明書、学術大会参加証明書（第6回大会から）など
手数料：500円

- 音楽療法士登録証明書、賞状

手数料：2,000円

※記載の住所や名義の変更も含まれます。

※3×4 cmの顔写真、現在お持ちの登録証明書と賞状を同封し、学会事務局までお送りください。

※登録証明書・賞状ともに再発行する場合も、一方のみを再発行する場合も手数料は一律2,000円です。

※名義変更の場合は、氏名のローマ字表記を必ず明記してください。

※1ヶ月程度お時間がかかりますのでご了承ください。

■ 音楽療法士求人情報提供のお願い

音楽療法士の求人情報を学会ホームページに掲載しています。有償で直接雇用のものに限定しますが、掲載を希望される際は、現在掲載されているページを参考に Word にて求人情報掲載内容を作成し、kanri@jmta.jp へお送りください。内容確認後、掲載可否についてお知らせいたします。掲載期間は3ヶ月です。なお、求人情報ページは情報を提供するだけのもので、就職の斡旋をするものではありません。